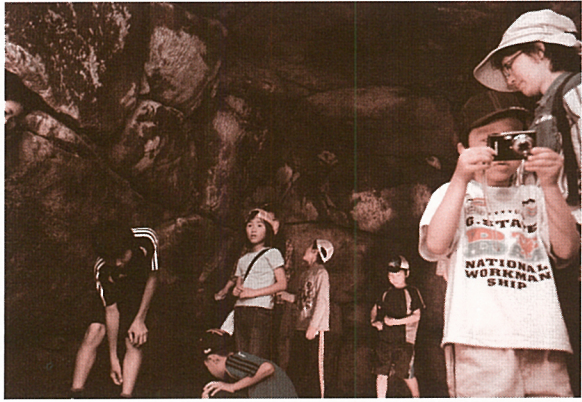


よい準備 よい聴講 よい体験  
**古代のロマンに触れ合った一時**  
**— 第四回古墳まつり開催 —**



馬背塚古墳の石室

去る六月五日に、塚原二子塚古墳を中心に「第四回古墳まつり」が開催されました。三百人余りの参加者が新調された横断幕の元、古代へのロマンに触れ合いました。

オープニングセレモニーでは、時又保育園のカラード隊・鈴岡太鼓の皆さんが、演奏を披露し、古墳まつりに華をそえました。開会式には、来賓の方々も古代着をまとい、参加頂きました。中平地域づくり委員長は「飯田には百四十二基の古墳があり、その中でも有数の二子塚古墳の前で多くの皆さんに楽しんでいただきたい」とあいさつがあり、牧野市長は「このような地域の財産を、地域の皆さんと一緒に、保存し、子どもや孫たちの代まで残していきたい」と、祝辞をのべられました。そして、木下公民館長のあいさつにあった「お互いにロマンを感じながら、楽しみましょう」を体験する企画のスタートが切られました。

説明会終了後、今回初めての試みとなった「馬背塚古墳」の見学が行われました。より多くの方が安全に参加できるように、二班に分かれて移動するか、全員で移動するか、当日まで検討されました。そんな苦労の末、八十名余りの子どもたちが親子づれが安全に見学ができました。現地では、古墳を考える会の今村文一さんによる馬背塚の説明がありました。メイン会場に戻った参加者は、思い思いに「火起こし体験」はにわくわくしながら、古墳まつりに取り組

が教育委員会の洪谷さんよりありました。過去三回の発掘調査の結果や塚原古墳群の特質性・又重要拠点ではなかったかなど、分かりやすく話していただきました。

説明会終了後、今回初めての試みとなった「馬背塚古墳」の見学が行われました。より多くの方が安全に参加できるように、二班に分かれて移動するか、全員で移動するか、当日まで検討されました。そんな苦労の末、八十名余りの子どもたちが親子づれが安全に見学ができました。現地では、古墳を考える会の今村文一さんによる馬背塚の説明がありました。メイン会場に戻った参加者は、思い思いに「火起こし体験」はにわくわくしながら、古墳まつりに取り組



発行所  
 飯田市竜丘公民館  
 編集人  
 竜丘公民館広報委員会  
 印刷所  
 龍共印刷株式会社  
 飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,800人
男子	3,341人
女子	3,459人
世帯数	2,291戸
(23年7月末現在)	

「古代食の試食、いかがですか」会場に響く声に誘われて、古代米のおにぎりなどに、舌鼓をうつ姿もみられました。

会場の反対側では、竜丘小学校六年生が作ったにはにわの野焼きが朝から行なわれていました。焼いているときの温度に注意しながら、スタッフの皆さんが額に汗して、火の管理をしてくれて、はにわが上手く焼き上がることができました。はにわ作りの土を事前にはにわ作りの土を事前には

「火起こし体験」はにわくわくしながら、古墳まつりに取り組

また、交通においても子どもたちが犠牲になる事故が絶えません。こうした中、竜丘地区では地域づくり委員会が中心となって「丘の子を見守る会」を結成し、子どもたちの安心安全を支援する活動を行っています。

五月十八日は、今年度最初の小学校集団下校時の見守り行動日でした。

自治振興センターで発足

式を終えた「丘の子を見守る会」に加えて、「ぶらきよる隊」「PTA」等の総勢約百名が小学校校庭に集まりました。校庭には、六年生を先頭に下校方面毎に整列しており、地域の皆さんはそのうしろに並びました。

先生方のお話が終わって十五時過ぎ、それぞれ方面毎にわかれて校門を出ます。しばらくは静かだった子どもたちも、歩を進めるうちに大きな声が出て賑やかにになりました。

最後は各家庭方面毎に分かれて流れ解散となり、竜丘に再び静かな時間が戻りました。

四年程前から続けられている、このような地域ぐるみの活動が、六月一日「飯田地区防犯協会連合会」の総会の席で「防犯功労団体」として表彰されました。

大変喜ばしい事であり、将来を担う大切な子どもたちを守るため、この活動を今後も続けていきたいと考えています。

地域の皆様の暖かいご協力を、これからもよろしくお願いたします。

「火起こし体験」はにわくわくしながら、古墳まつりに取り組

また、交通においても子どもたちが犠牲になる事故が絶えません。こうした中、竜丘地区では地域づくり委員会が中心となって「丘の子を見守る会」を結成し、子どもたちの安心安全を支援する活動を行っています。

五月十八日は、今年度最初の小学校集団下校時の見守り行動日でした。

自治振興センターで発足

式を終えた「丘の子を見守る会」に加えて、「ぶらきよる隊」「PTA」等の総勢約百名が小学校校庭に集まりました。校庭には、六年生を先頭に下校方面毎に整列しており、地域の皆さんはそのうしろに並びました。

先生方のお話が終わって十五時過ぎ、それぞれ方面毎にわかれて校門を出ます。しばらくは静かだった子どもたちも、歩を進めるうちに大きな声が出て賑やかにになりました。

最後は各家庭方面毎に分かれて流れ解散となり、竜丘に再び静かな時間が戻りました。

四年程前から続けられている、このような地域ぐるみの活動が、六月一日「飯田地区防犯協会連合会」の総会の席で「防犯功労団体」として表彰されました。

大変喜ばしい事であり、将来を担う大切な子どもたちを守るため、この活動を今後も続けていきたいと考えています。

地域の皆様の暖かいご協力を、これからもよろしくお願いたします。

このたびの東日本大震災は東北地方に甚大な被害をもたらした。中でも、流通については、コスト削減のため、整備されたインフラを活用し、拠点による大量生産・流通徹底した在庫管理などを行う物流システムに甚大な影響があった。燃料や食品、機械部品など、その影響は全国へと広がった。

被災地では、ライフラインが寸断され物資の流れが止まり、避難所の設置すらままならない状況が続いていた。

そのような中でも、被災直後から自給的な生活を始めることが出来た集落があると聞く。昔ながらの農村で、各農家にある食糧や薪などの燃料を持ち寄り、共同で自炊し自立した生活を始めた。集落内の被災状況の確認も比較的迅速に行えたという。

震災後、結婚する人が増えているという特集をテレビで放映していた。人の絆や地域の力が、今見直されている。

農産物や食料、エネルギーなどの資源が地域内で循環する仕組み、それを支える地域の絆、住んでいる人の顔が見える地域づくりなどを進めることは、災害に強い地域を目指すことになり、食糧やエネルギーの自給率向上にも繋がる。

過日行われた竜丘の市政懇談会において、リニア中央新幹線の建設計画について意見が出ていた。リニアの実現が高まる中、メリットとデメリットを把握する中で、十年二十年先の将来を見通したとき、今回の震災から学ぶことは多い。

このたびの東日本大震災は東北地方に甚大な被害をもたらした。中でも、流通については、コスト削減のため、整備されたインフラを活用し、拠点による大量生産・流通徹底した在庫管理などを行う物流システムに甚大な影響があった。燃料や食品、機械部品など、その影響は全国へと広がった。

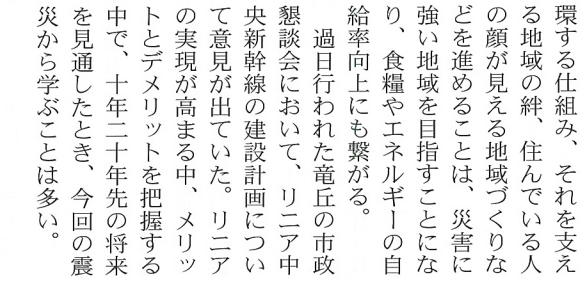
被災地では、ライフラインが寸断され物資の流れが止まり、避難所の設置すらままならない状況が続いていた。

そのような中でも、被災直後から自給的な生活を始めることが出来た集落があると聞く。昔ながらの農村で、各農家にある食糧や薪などの燃料を持ち寄り、共同で自炊し自立した生活を始めた。集落内の被災状況の確認も比較的迅速に行えたという。

震災後、結婚する人が増えているという特集をテレビで放映していた。人の絆や地域の力が、今見直されている。

農産物や食料、エネルギーなどの資源が地域内で循環する仕組み、それを支える地域の絆、住んでいる人の顔が見える地域づくりなどを進めることは、災害に強い地域を目指すことになり、食糧やエネルギーの自給率向上にも繋がる。

過日行われた竜丘の市政懇談会において、リニア中央新幹線の建設計画について意見が出ていた。リニアの実現が高まる中、メリットとデメリットを把握する中で、十年二十年先の将来を見通したとき、今回の震災から学ぶことは多い。



市政懇談会

**来年も参加したい!!**  
**小学生の感想**

昔の人が、こんな事をやっていったんだなあと、改めて思いました。

はにわの焼き上がりを見ると、とても達成感を感じた。焼いてくれた人の焼き方も良かったのかなあと思った。うれしかった。

古代食の試食も、あまり食べたことのない物が食べられて良かった。

私が一番だったのは勾玉作りで、自分で形をつくれただけ楽しかった。

馬背塚古墳は遠足でも行っていいなあと、改めて思いました。

昔の人が食べていた食べ物も食べたことないし、おいしいので、またやってほしいと思います。

少ししかいかなかったけど、土器を焼いている所を見れて良かった。

はにわを焼くとき、最初から自分たちでやりたい。

**地域づくりもを守る**  
**「丘の子を見守る会」が発足**

近年、全国的な傾向として、児童の登下校時に不審者が出没し、痛ましい事件が発生しています。

また、交通においても子どもたちが犠牲になる事故が絶えません。こうした中、竜丘地区では地域づくり委員会が中心となって「丘の子を見守る会」を結成し、子どもたちの安心安全を支援する活動を行っています。

五月十八日は、今年度最初の小学校集団下校時の見守り行動日でした。

自治振興センターで発足

**ヤフ蚊**

このたびの東日本大震災は東北地方に甚大な被害をもたらした。中でも、流通については、コスト削減のため、整備されたインフラを活用し、拠点による大量生産・流通徹底した在庫管理などを行う物流システムに甚大な影響があった。燃料や食品、機械部品など、その影響は全国へと広がった。

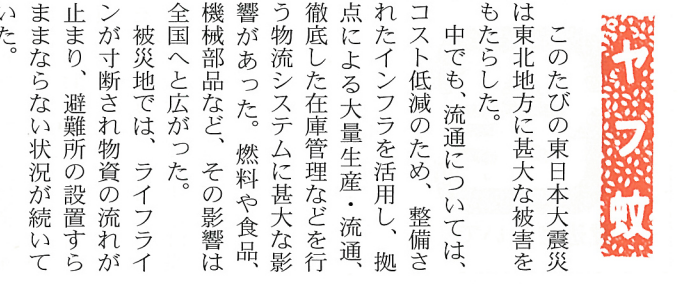
被災地では、ライフラインが寸断され物資の流れが止まり、避難所の設置すらままならない状況が続いていた。

そのような中でも、被災直後から自給的な生活を始めることが出来た集落があると聞く。昔ながらの農村で、各農家にある食糧や薪などの燃料を持ち寄り、共同で自炊し自立した生活を始めた。集落内の被災状況の確認も比較的迅速に行えたという。

震災後、結婚する人が増えているという特集をテレビで放映していた。人の絆や地域の力が、今見直されている。

農産物や食料、エネルギーなどの資源が地域内で循環する仕組み、それを支える地域の絆、住んでいる人の顔が見える地域づくりなどを進めることは、災害に強い地域を目指すことになり、食糧やエネルギーの自給率向上にも繋がる。

過日行われた竜丘の市政懇談会において、リニア中央新幹線の建設計画について意見が出ていた。リニアの実現が高まる中、メリットとデメリットを把握する中で、十年二十年先の将来を見通したとき、今回の震災から学ぶことは多い。



古墳まつりの様子

# 三六災害から五十年 ～記念講演会開催～

七月三日桐林区民センターを会場に水害・土砂災害に備え地域の防災能力向上を目的として「三六災害五十年記念講演会」が開催されました。

講演会では、「東日本大震災から学ぶ」と題し、飯田広域消防伊賀ら消防署の安藤博行さんから大規模地震に対する備えについて講演いただきました。安藤さん



は、この震災で実際に救助活動に東北に行かれ、そこで体験も含めお話し下さいました。その時の写真や、実際の活動をお聞きする中でこの大震災の凄まじさをあらためて実感しました。

講演に引き続き、写真や、記録でしか知りませんでした。今回の講演会で、当時の様子、苦勞、頑張り伝わってきました。私たちが若い世代は、三六災害を知らない世代です。しかし、この様な災害の教訓は、決して忘れてはならないと思います。今回の大震災も同じです。この様な講演会は、私たちの様な世代にこそ必要な機会です。講演会を開催していただいた竜丘地域づくり委員会の皆様に感謝いたします。 林 宏敏(桐林)

## 福祉健康委員がもてめられていることは 福祉健康委員会研修会開かれる

福祉健康委員会は去る六月九日、竜丘公民館において講師に元飯田市職員、NPO法人あおぞら代表の鷲見敏夫さんを迎え、委員研修会を開催しました。鷲見さんは「終戦直後の昭和二十年代の福祉・保健活動は、生活支援、健康対策が主目的だったが、時代の変遷に伴い近年は障害者問題、高齢者問題、少子化の問題等々広範囲に多角的になってきている」と説明され、続いてデータをもと

に現状を次のように解説されました。竜丘地区においても少子高齢化が急速に進展している。○歳々六十四歳までの人口は減少し、六十五歳以上の高齢人口が増加している。これに伴って要支援、要介護者数も増えている。晩婚化、未婚化の問題も深刻で、家庭内介護能力の低下が進行している。また求人倍率も現状は○・五程度を深刻である。さらに平成三年頃竜丘地区で行われたネットワーク活動の事例から地域内連携の大切さを説明し、最後に「先ず担当地域の実情を調査し、住民が何を希望し、何を望んでいるかをしっかりと把握する。そして出来ることは何かを検討のうえ、行動に移していくことが重要である。」と話されました。(福祉健康委員 小林武記)



福祉健康委員研修会

## 親子ふれあいハイキング 春の里山体験



今年には参加者とスタッフを含め総勢九十名の参加となりました。さわやかな気候の中ハイキングの始まりです。集合場所から会場までの途中、道をまちがえるハプニングもありましたが、四十分をかけて無事到着しました。

ハイキングは、竜丘財産区の区有林で行いました。受付をすませ、木の名札へ名前を書き、グループごと竜丘財産区議員の皆さんと、タケノコとわらび採りへと向かいました。タケノコを袋いっぱい採り満足そうな笑顔です。しかし、わらびはまだ出が少なくわずかし採れませんでした。その後、グループごとパン焼きと焼き芋にチャレンジです。皆様もおもいお楽しみました。パンを焼きすぎた人や、焼き芋をほおばる人などたいへんにごやかに行なわれました。昼食の時間も近づき、豚汁も良い香をさせています。皆で豚汁用のカップを竹を使って作りました。お弁当を食べて楽しいハイキングを終了しました。

## 土に埋もれた先祖の足跡

第三十三回竜丘市民大学講座第一講が、六月二十三日に行われました。講師に竜丘小学校長の市澤英利先生を迎え、「土に埋もれた先祖の足跡」をテーマに講演いただきました。まず、私たちが住んでいる地形環境はどのようになっているかをお話しいただきました。その上で、発掘調査や遺跡の数と、発掘によつて分かった集落、県内でも有数の古墳群等を、現在の竜丘の写実と発掘調査の結果を比較しながら説明いただきました。竜丘には古墳があることは多くの方がご存じのことと思います。しかし今回の講演では古墳ばかりでなく、古墳時代以前の遺跡や古墳時代以降の遺跡を数多く紹介いただきました。竜丘の地には縄文時代から現在まで、脈々と受け継がれる何かを感じました。

### 市民大学講座第一講



この講座は、市民大学が主催する講座で、市民の生活や文化に関する様々なテーマを取り上げています。今回は、古墳時代の歴史や文化について詳しく学びました。講師の市澤先生は、発掘調査の結果から、古墳時代の生活様式や社会構造について詳しく説明してくださいました。また、古墳時代の遺跡や古墳の分布についても詳しく説明してくださいました。今回の講座は、非常に興味深いものであり、多くの参加者が参加しました。今後もこのような講座を開催してほしいと思います。

## 体力テスト (H23.5.29実施) 結果集計

【総合評価】

	男性					女性				
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
30～39歳			1	9	2		1	3	2	1
40～49歳	4	4	3	1				8	3	
50～59歳	3	3	2	1		2	4	2		
60～64歳	1	2		1						
65～69歳	1	3	1			2	2		1	
70～74歳	1	2						1		

去る五月二十九日、体育委員会主催で、竜丘新体力テストを行いました。文部科学省が、国民の体力・運動能力を現状把握するとともに、体育・スポーツ指導の基礎とするため導入された調査で、現在の自分の体力、運動能力が確認でき、年齢に応じた、体力年齢を判定することができるものです。今回、百三十名が参加され、握力・上体起こし・長座体前屈・回復横とび・片足立ち・急歩等の記録を計り、各項目の得点を合計し総合評価の判定をしました。竜丘の集計結果(七十七名)は、男性女性とも、年齢の高い方の評価が高く、若い方のほうが少し低い傾向ができました。体力が健康に密接に関係している、生活習慣病予防のためにも、年齢に適した体力水準を維持することがきわめて大切だそうです。自分の体力、能力を見直すいいきっかけとなりました。

## 各家庭でもう一步の注意を 竜丘地区ゴミの組成調査

去る六月二十四日竜丘地区ゴミの組成調査が「グリーンセンター」にて、環境委員七名、市環境課の加藤さん、高田さん御指導のもと分別作業を行い、埋立ごみ、燃やすごみ、分別ごみ、分別状況を確認しました。当日収集の埋立ごみ三十四袋と燃やすごみ六袋を調査しリサイクル可能な物が混ざっていないかの確認を行いました。その結果特にプラ資源、紙資源が多く含まれていまし

た。「家庭でゴミ箱等に入れる時に分別するなどの工夫が必要では」との声もあがっていました。全部ゴミの分別が悪いわけではありません。各家庭でもう一步の注意をお願いします。特に環境課からは、「プラマークを見逃さない」「ライター、スプレー缶のガス抜きは完全に「スプレー」マークを消す」ようお願いされました。



見逃さないで!